

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

|      |        |
|------|--------|
| 事業所名 | Wapi稲毛 |
|------|--------|

公表日 2026年 4月 1日

利用児童  
数

31名

回収数

15名

|   | チェック項目  |    |               |     |       | ご意見  | ご意見を踏まえた対応                                  |
|---|---|----|---------------|-----|-------|--|---|
|   |   | はい | どちらとも<br>いえない | いいえ | わからない |  |   |
| 環境・<br>体制<br>整備   | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。  | 11 | 4             |     |       |  | できる範囲で環境を整えて支援していきたいと思います。                  |
|   | 2 職員の配置数は適切であると思いますか。   | 15 |               |     |       |  |   |
|   | 3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。                                | 14 | 1             |     |       |  | お子さん一人ひとりの興味や関心に応じて安全に配慮し、対応していきます。         |
|   | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。   | 15 |               |     |       |  |   |
| 適切<br>な<br>支<br>援<br>の<br>提<br>供  | 5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。  | 14 |               |     | 1     |  |   |
|   | 6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。  | 15 |               |     |       |  |   |
|   | 7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。   | 15 |               |     |       |  |   |
|   | 8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。     | 14 |               |     | 1     |  |   |
|   | 9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。  | 13 | 1             |     | 1     |  |   |
|   | 10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。  | 14 | 1             |     |       |  |   |
| 11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。   | 12  | 1  | 1             | 1   |       | 個別療育が中心であるため、同じ園に通うお子様との間で交流機会を設けるに留まっております。 |   |
| 保<br>護<br>者<br>へ<br>の<br>説<br>明<br>等  | 12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。  | 15 |               |     |       |  |   |
|   | 13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。  | 13 | 1             | 1   |       |  |   |
|   | 14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。   | 14 | 1             |     |       |  |   |
|   | 15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。  | 15 |               |     |       |  |   |
|   | 16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。  | 14 | 1             |     |       |  |   |
|   | 17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。  | 13 | 1             |     | 1     |  |   |
|   | 18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。 | 11 | 2             | 1   | 1     |  | 年3回のCaféWapiを開催しておりますので、機会がありましたらぜひご参加ください。 |
| 19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 | 14  | 1  |               |     |       |  |   |

|         |    |  |    |   |  |   |   |
|---------|----|--|----|---|--|---|---|
|         | 20 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。  | 14 | 1 |  |   |   |
|         | 21 | 定期的な通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。                   | 14 | 1 |  |   |   |
|         | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。   | 14 | 1 |  |   |   |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 11 | 2 |  | 2 | 避難訓練・災害時に向けた訓練は年2回実施しております。   |
|         | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。   | 10 | 2 |  | 3 | 避難訓練・災害時に向けた訓練は年2回実施しております。また災害用伝言ダイヤル171を使用した訓練も実施しておりますので、ご協力をお願いいたします。 |
|         | 25 | 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。                             | 14 | 1 |  |   |   |
|         | 26 | 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。                              | 13 | 2 |  |   |   |
| 満足度     | 27 | 子どもは安心感をもって通所していますか。   | 15 |   |  |   |   |
|         | 28 | 子どもは通所を楽しみにしていますか。   | 15 |   |  |   |   |
|         | 29 | 事業所の支援に満足していますか。   | 15 |   |  |   |   |

## 公表 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

| 事業所名     |    | Wapi稲毛   |    | 公表日 |  | 2026年 4月 1日   |  |  |
|----------|----|--|----|-----|--|---|--|--|
|          |    | チェック項目   | はい | いいえ | 工夫している点  | 課題や改善すべき点   |  |  |
| 環境・体制整備  | 1  | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。   | 5  | 2   | 公園に行くなど外活動を取り入れる、空間やスペースをカーテン等で仕切ること、個別の空間を設けて過ごせるように工夫しています。また、他児と一緒に活動することで空間が活用できるように支援しています。 | 午前は空間的、人間的な配置は満たさせていますが、午後は利用児も置く、人員体制の整備は課題であるため、支援の時間や空間を調整することで、お子様が安心して過ごせる場所の提供に努めていきます。 |  |  |
|          | 2  | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。  | 2  | 5   | 本部職員にサポート、支援に入って体制を維持しています。  | 本部職員のサポート体制を整えても、支援に入る人員体制として十分ではない状況もあるため、人員体制の確保に努めていきます。                                   |  |  |
|          | 3  | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。  | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 4  | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。  | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 5  | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。   | 6  | 1   | 個別のスペースは十分ではありませんが、相談室のパーティションやカーテンの仕切りを利用してクールダウンを図るなど工夫しています。                                  |   |  |  |
| 業務改善     | 6  | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。  | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 7  | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。   | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 8  | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。   | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 9  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。   | 4  | 3   |  |   | 第三者による外部評価を受けておりませんが、必要に応じて実施を検討していきます。                      |  |
|          | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。  | 7  |     |  |   |  |  |
| 適切な支援の提供 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。  | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。   | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 13 | 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。   | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 14 | 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。  | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。  | 6  | 1   |  |   | 行動観察やお子様の特性理解において、全職員が丁寧に理解を深めていますが、標準化されたツールでの評価は実施しておりません。 |  |
|          | 16 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。   | 7  |     |  | 就学前プログラムについては、関わる支援者同士で活動内容やねらいを話し合い、意見を出し合って支援内容を決めています。                                     |  |  |
|          | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。   | 6  | 1   |  |   | 興味や関心に合わせて、お子様の気持ちに寄り添いながら、課題に結びつく遊びや活動を提案しております。            |  |
|          | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。  | 7  |     |  |   |  |  |
|          | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。  | 6  | 1   |  |   | 支援での様子や共有が必要な事項については、職員間で確認や連携を密に心がけていきます。                   |  |
|          | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。   | 7  |     |  | 必要に応じて全体共有が必要な内容、事項がある場合には、伝達と共有を行っています。  |  |  |

|              |    |  |   |   |   |  |
|--------------|----|--|---|---|---|--|
| 関係機関や保護者との連携 | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。   | 7 |   |   |  |
|              | 23 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。  | 7 |   |   |  |
|              | 24 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。   | 7 |   |   |  |
|              | 25 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。   | 7 |   | 他機関からの問い合わせや相談に応じて、情報共有を行い密に連携を図ることができるようにしています。          |  |
|              | 26 | 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 7 |   | 保護者様からの依頼や相談により就学、就園先と事前に面談等を設定して連携を図っております。              |  |
|              | 27 | 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。   | 7 |   |   |  |
|              | 28 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。   | 3 | 4 | 基幹センター及び児童発達支援センターの参加する稲毛区意見交換会に年3回出席し、地域連携や情報共有の機会を設けます。 |  |
|              | 29 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。  | 2 | 5 |   | 地域連携として近隣との連携を図っていくことが課題であると考えています。幼稚園や関連施設から、講演の依頼をいただくことはあるため、お子さんの交流機会も設けていけるように検討していきます。 |
|              | 30 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。   | 7 |   | 支援後のフィードバックやHUGのメールを活用してお子様の様子をご報告共有させていただいております。         |  |
|              | 31 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。                               | 7 |   | CaféWapi（保護者との交流会）の中で、保護者向けのお話や地域情報発信する機会を提供しております。       |  |
| 保護者への説明等     | 32 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。   | 7 |   |   |  |
|              | 33 | 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。                             | 7 |   | 支援の前後及び必要に応じて面談等の機会を設けてアセスメントを実施することで支援計画に反映している          |  |
|              | 34 | 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。   | 7 |   |   |  |
|              | 35 | 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。   | 7 |   | 必要に応じて都度、面談を設定し相談に応じ対応している。緊急の場合は、お電話によるご相談にも応じております。     |  |
|              | 36 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。                 | 7 |   | CaféWapi（保護者交流会）を年3回実施しております。                             |  |
|              | 37 | こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。                               | 7 |   | 必要に応じて都度、面談を設定し相談に応じ対応している。緊急の場合は、お電話によるご相談にも応じております。     |  |
|              | 38 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。                                   | 6 | 1 | SNS、HUGのお知らせを活用してご案内や発信を行っております。                          | 定期的な発信は難しく、改善していかなければと思っています。  |
|              | 39 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。  | 7 |   |   |  |
|              | 40 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。  | 7 |   |   |  |
|              | 41 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。  | 1 | 6 |   | 事業所に園や学校の先生方、他機関の方に来ていただく機会は設けています。地域住民との交流機会はどのような形が適宜か検討していけるとよいと考えております。                  |
|              | 42 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。                            | 7 |   |   |  |
|              | 43 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。  | 7 |   |   |  |
|              | 44 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。  | 7 |   |   |  |

|         |    |  |   |   |  |   |
|---------|----|--|---|---|--|---|
| 非常時等の対応 | 45 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。                                       | 7 |   |  |   |
|         | 46 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。                 | 7 |   |  |   |
|         | 47 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。                    | 7 |   |  |   |
|         | 48 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。                                      | 7 |   |  |   |
|         | 49 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。   | 7 |   |  | 虐待防止・身体拘束に関する研修を年2回実施しています。   |
|         | 50 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。 | 6 | 1 |  | 虐待防止・身体拘束に関する研修を年2回実施しています。契約時に説明同意を得た上で、支援での職員の対応や働きかけが、虐待や身体拘束に該当しないか検証しています。 |

公表

## 事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

|                |              |     |        |              |
|----------------|--------------|-----|--------|--------------|
| ○事業所名          | Wapi稲毛       |     |        |              |
| ○保護者評価実施期間     | 2026年 1月 15日 |     | ～      | 2026年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)       | 31名 | (回答者数) | 15名          |
| ○従業者評価実施期間     | 2026年 1月 15日 |     | ～      | 2026年 1月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)       | 7名  | (回答者数) | 7名           |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 4月 1日  |     |        |              |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること  | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等  |
|---|---|--|---|
| 1 | お子さんが継続的、長期的に通所くださることで、お子さんの育ちを共有しながら、発達段階や特性に応じた柔軟な支援を実施している。子ども一人ひとりの長所や興味関心に寄り添い引き出していく。 | 環境の変化に対して、緊張や不安を抱えるお子様や、適応するまでに時間を要するお子様がいるため、安心して自分らしく過ごせる居場所を提供できるように心がけている。 | ・お子様の成長に伴い、体が大きくなっていることもあるため、活動が制限されないようお子さんと相談しながら活動を工夫していく。 |
| 2 | 個別療育のため、お子さんのペースに合わせて活動を選択していくことができる。   | 気持ちや情動の調整を行い心身の発散や気持ちを受け止め寄り添っていくことを大切にしている。                                   | ・課外活動(外遊び、お出かけ、買い物)など目的や達成した事柄をお子さんと一緒に計画し実行できるよう支援する。        |
| 3 |   |  |   |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること        | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|---|---|---|
| 1 | お子さんの成長に伴い、小学生の高学年には手狭な環境であり、運動活動など身体を動かすには制限がある。 | 施設内環境は限られているため、お子様にも状況を伝え一緒に考えていけるとよいと思う。しかし、身体を動かして心身の発散が必要な場合もあるため、危険性や安全を考慮していくことに課題もある。 | 支援時間やお子様の特性に応じた環境を検討しているが、難しい状況もあるため、可能な限り空間を分けて活動できるように工夫し、職員間で連携を図っている。 |
| 2 | 多機能型のため、小学生児童と乳幼児の異年齢のお子様と同じ環境で過ごす事案がある。          | 多機能型として、放デイ・児発の時間帯を分けて支援することも検討していく必要がある。   | できる限り小学生児童・乳幼児の時間帯を分けて、安全に支援できるよう支援枠の受け入れを調整していく。                         |
| 3 | 車を所有していないため、送迎対応が難しい。                             | 送迎車、駐車場、送迎人員等を考えると駅前の立地であるため、上記を確保することが難しい状況。   | 送迎に対応していない理由を丁寧に説明させていただきご理解いただく。   |